

「子どもの学力・生活習慣改善研修会」

兼 留萌管内PTA連合会研究大会・天塩町PTA連合会研究大会

期日：平成30年9月22日（日） 会場：天塩町立天塩小学校

本研修会は、子どもたちが社会で自立して生きていくために必要な学力・体力や望ましい生活習慣の確立の重要性について、保護者、地域住民、学校及び教育委員会等が共通理解を深めるとともに、学力・体力の向上や生活習慣の改善を図る方策を共有し、地域が一体となった取組を促進することを目的として、天塩小学校を会場に155名の参加者を得て開催されました。

本研修会では、講演・演習を行い、その後、部会では、テーマを設定し、協議を行いました。
以下には、講演と演習の内容を報告します。

講演

「子どものやる気と能力を引き出す家庭教育」

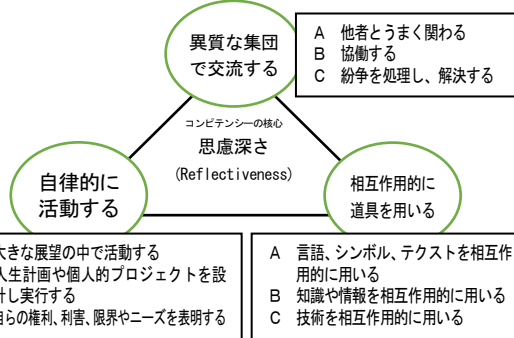
講師：一般社団法人日本青少年育成協会 主席研究員 小山 英樹 氏

- 人類は、「狩猟・採集社会」から「農業革命」、「産業革命」、「情報革命」を経て、現在は、「Society5.0」の社会を迎えている。社会は、加速度的に進展しており、これらの変化を意識しながら教育を考えなければ、今を生きる子どもたちとの感覚のずれが生じる。
- また、人生100年時代を迎えようとしている現在、これまでの人生モデルを見直すとともに、生涯を通じ学ぶための好奇心や向学心、積極性、主体性、学びを楽しむ力など、「学び続ける力」を身に付ける必要がある。



〔小山氏の講演の様子〕

3つのキー・コンピテンシー



OECD「The Definition and Selection of KEY COMPETENCIES」などを参考に文部科学省で作成

- OECDは、これからの社会を生き抜くための能力として、3つの「キー・コンピテンシー」(左図)をまとめており、これらは、新しい学習指導要領にも反映されている。
- これらの能力の核になるのは、「思慮深さ(Reflectiveness)」である。子どもたちには、自身を省みることのできる力「省察性(メタ認知)」の能力を身に付けさせ、「思慮深さ」を向上させる必要がある。
- 「思慮深さ」の向上を支援するためには、子どもたちとの「対話」が必要である。
- 「対話」では、「傾聴」の姿勢と相手を「承認」する態度が重要であり、「傾聴」から子ども自身の「気付き」を促すとともに、「承認」から子どもたちに「安心感」を与える必要がある。

- 「傾聴」とは、相手の思いを受けとめることで、存在承認につながる。また、子どもたちは、自身の思いを話すことで、考えを客観視することができる。
- 「承認」とは、欠点を見付け訂正することではなく、相手の長所を見付け伝えることであり、「承認」されることにより、子どもたちは自己成長力を高める。
- 子どもたちが、自らの可能性を否定し、夢や目標を失ってしまうのではなく、「対話」をきっかけとして、子どもたちのやる気や能力を引き出す大人との出会いができるよう期待している。

演習

講師：一般社団法人日本青少年育成協会 主席研究員 小山 英樹 氏

※講演と並行して、参加者同士のペアワークによる演習を実施した。

- 演習では、参加者同士の「対話」を通して、ロールプレイの手法を活用し、考えを相手に伝えることや「傾聴」に必要な要素や技術的なコツ等について体験した。
- 子どもたちの中には、「対話」を苦手にすることもあるが、将来のために心を開く訓練をする必要がある。
- 人は、よりよく生きてほしいと思うあまり、相手の欠点や短所に目を向けてしまうことがあるが、「承認」は、相手の良いところを見付け、伝えることが重要である。
- 「承認」は、コミュニケーションの中の主語の違い、「YOU(ユウ)メッセージ」と「I(アイ)メッセージ」によって、受け手のとらえ方が変わる。「Iメッセージ」を送ることで受け手は、期待されていると感じ、自己成長力を高められる。

【傾聴の3要素】

- ① 集中する
- ② 判断を脇に置く
- ③ 沈黙を大切に

【傾聴の4つのコツ】

- ① 安全な距離・位置
- ② ペーシング
- ③ オウム返し
- ④ 聴いたよ信号

【アンケート結果から】

- 子どものやる気を引き出すことが、学力や体力の向上、望ましい生活習慣の定着につながることがわかりました。(教職員)
- 誰もが可能性や能力をもっており、興味やチャレンジしたいという意欲を育むことの大切さを実感しました。(保護者)
- すぐにも実践でき、これからの家庭教育に役立てられるととても素晴らしい講演でした。(保護者)